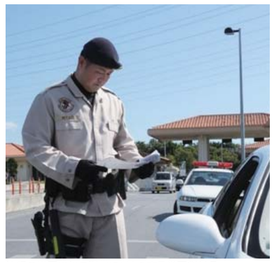
（毎月1・15日発行）　防　衛　ホ　ー　ム　2014年3月1日　第878号　（6）

在日米軍従業員　「わが国を守るもう一つの力」

在日米軍従業員とは

わが国に駐留し、日本やアジア太平洋地域の平和と安全に寄与する在日米軍が、駐留軍等労働者と呼ばれる在日米軍従業員に支えられていることをご存じだろうか？

在日米軍従業員は、日米安全保障条約等に基づき、わが国政府（防衛大臣）に雇用され、その数約2万6千人が全国各地の米軍基地で勤務し、事務・技術・消防・警備等のほか、基地内の食堂など多岐にわたって、日々、在日米軍の活動を支えている。


沖縄の米軍基地で警備に当たる在日米軍従業員

雇用の種類

常用	常用従業員	期間の定めなく雇用
臨時	日雇従業員	1カ月を超えない業務に1日単位で雇用される者
	限定期間従業員	4カ月または2カ年を超えない予定の業務に雇用される者
	特殊期間従業員	医療実習生、教師（日本語）など特殊な性格を持つ業務に雇用される者
	高齢従業員	60歳以上の者
	時給制臨時従業員	臨時業務又は常用従業員の補助のために雇用される者

職種の数はおよそ1,300に及ぶ

活躍する在日米軍従業員

【プロフィール】
●名　前：冨永　淳一さん
●職場名：岩国飛行場 基地オペレーション部管制課
●職　種：航空運輸専門職

『基地オペレーション部管制課』

皆様には聞き慣れないこの職場について、少し御紹介します。パイロットの飛行業務が、安全にかつ円滑に遂行できるように航空情報業務に携わっていて、岩国に常駐する飛行部隊のフライトスケジュールを管理し、フライトに必要な飛行計画、航空機の離発着に関する情報を送信、受信するのが主な仕事です。パイロットの要求を無線その他で応え、その要望に適切に対処できる部署に情報を提供し調整を行うのも、重要な任務です。

岩国錦帯橋空港開港、厚木艦載機・普天間給油機の岩国への移転など、我々の業務は一段と多忙を極めるでしょう。

【プロフィール】
●名　前：山田　昭彦さん
●職場名：佐世保海軍施設 警備部警備業務課
●職　種：軍犬取扱員

元々犬が好きだった事もあって1989年に軍用犬訓練士になる為の試験を受けたのですが、予想以上に厳しいものでした。

40日間の講習と訓練を受け試験に合格しなければ訓練士になれない「えっ！聞いてないよ（汗）」というものでした。

犬が好きだっただけの私が、軍用犬を取り扱う事になり、いかに犬が持っている能力を引き出して伸ばすことが出来るか?を考えながらいろんな方法を取り入れて訓練をしています。

今、私が扱っている軍用犬は…

犬：「もっと褒められて伸ばされたいです。」と言っています（笑）

これからも佐世保基地の軍用犬は、レベルが高いと評価される様に頑張りたいと思います。

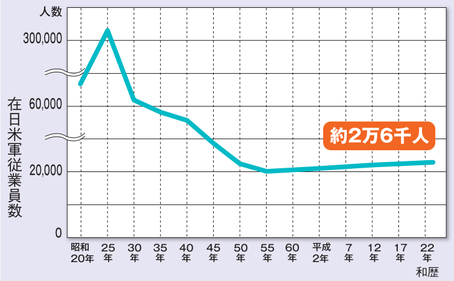
【プロフィール】
●名　前：荒井　利光さん
●職場名：横田飛行場 第730航空機動中隊 空港小隊 パッセンジャーオペレーションズ
●職　種：フォークリフト運転手

私たちの仕事は、横田基地に飛来する軍用機や軍によりチャーターされた航空機を利用する陸・海・空・海兵隊の軍人や軍属の手荷物を扱うこと、及び、タラップ車を航空機に着けたり外したりなどの地上支援が主な仕事内容です。

手荷物の積み下ろし業務については、我々日本人従業員がいなければどうにもならないほど軍人から頼りにされている状況ですので、責任感もあると同時にやりがいもあります。本来なら軍のミッションは兵隊が中心に行なうべきところを、ミッションの一部を経験豊富な我々に委ねられていることは、信頼されている事と誇りに思いますし、それを確実に行なっていくことにより、我々も米軍に対して貢献していると自負しています。

また、よく「横田基地でどのような仕事をしているの?」と聞かれることがあるのですが、このような仕事をしている職場もあると言うことを知って貰えたら嬉しいですね。

数字で見る在日米軍従業員



在日米軍従業員は、昭和23年から昭和27年までの間は国家公務員、昭和27年以降は国に雇用される者という立場になっている。

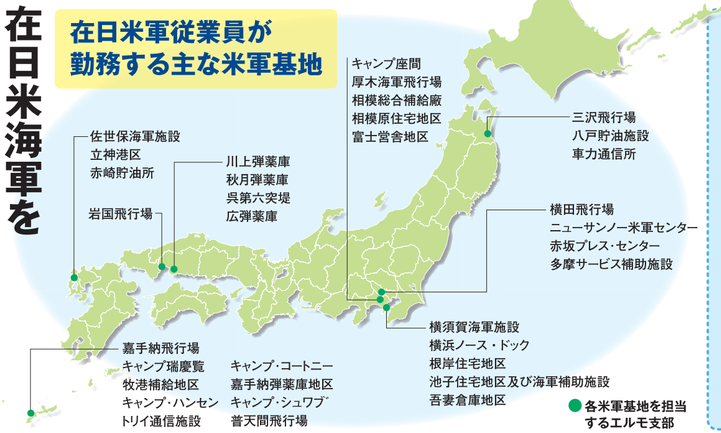
昭和27年の平和条約等の発効時においては、約20万人であったが、その後陸上戦闘部隊の撤退等により減少し、昭和50年代からは概ね現在の規模で推移してきている。

在日米海軍を支える技術者集団 艦船修理のエキスパート

米海軍横須賀基地に艦船修理廠及び日本地区造修統括本部という部隊がある。彼らの任務は、米海軍の艦船の修理、保守、改造補修などの支援だ。ここでは、艦船修理のエキスパートである在日米軍従業員の技術者が活躍している。その職種は、艦船の修理に関する詳細な設計や電子システムの設置・交換に関する研究・分析等を行う専門職種から、実際に船舶の修理等に携わる船舶兵器修理工、船舶電気工、船舶設備取付け工、船舶整備工、大工（造船）工、潜水員など多岐にわたっており、彼らに求められる知識や技術は高度を極めている。

また、全くの素人を一人前の技術者に4年間をかけてじっくり育て上げる訓練制度もある。訓練生として採用されると、技術習得のための座学研修やOJT、集中英語訓練などを経てエキスパートへの道を進むことになる。1985年にこの訓練制度を創設し、これまで約600名の卒業生が技術者としてさまざまな部署で活躍しており、現在も約120名の訓練生が在籍している。このように厳しい教育を受け高い技術を有した在日米軍従業員が、米海軍の艦船の運用をサポートし、わが国の平和と安全に寄与しているのだ。

在日米軍従業員が勤務する主な米軍基地



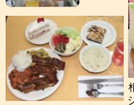
雪にも負ケズ

在日米空軍は、常用従業員だけでは賄いきれない三沢飛行場の滑走路等の除雪のために、毎年約50名前後の「限定期間従業員」を採用している。除雪ではアメリカ製の重機を使用することから、採用条件として日本の「大型特殊自動車」や「大型自動車」の運転免許が要求されている。

三沢地区は青森県の中で比較的雪の量が少ない地域であるが、一晩で30センチ以上降ることもあり、基地を通常どおり運用できるように保つため、彼らは常に24時間除雪できる体制を整え、在日米空軍の活動を支えている。

実はここにも従業員

米軍基地にある食堂の厨房にも調理に腕をふるう在日米軍従業員がいる。米本国から送られてくる食材をアメリカンに仕立て上げ、米兵達の舌を唸らせるのが彼らの仕事だ。ある日のキャンプ座間兵員食堂のランチメニューを見てみた。「豚スペアリブのバーベキュー、アメリカ南部風大学芋、オクラのてんぷら、クリームスープ、サラダ、苺のショートケーキ、チョコレート・ココナッツケーキ」ボリューム満点！腹が減ってはなんとやら。彼らは米兵達の胃袋を満たすことで日本の安全保障を支えているのだ。


キャンプ座間兵員食堂

相模総合補給廠デポラウンジのハンバーガーはまさにアメリカンサイズ！

「日米防衛協力のための指針」と在日米軍従業員

平成9年、日米安全保障協議委員会（「2+2」）において、「日米防衛協力のための指針」（いわゆる「ガイドライン」）が決定された。日米両国がわが国に対する武力攻撃などに迅速に対処する際の両国の役割を明らかにしたガイドラインが在日米軍従業員に言及していることは意外と知られていない。

周辺事態における協力の対象となる機能及び分野並びに協力項目例がガイドラインの別表に欠くるが、その中で、米軍の活動に対する日本の支援として「米軍施設・区域従業員の「時増員」が掲げられているのである。このことからも、在日米軍従業員の存在は、わが国の平和と安全に欠くことのできない重要な要素の一つであると言えよう。

周辺事態における協力の対象となる機能及び分野並びに協力項目例（抜粋）

米軍の活動に対する日本の支援	後方地域支援	補給 輸送 整備	
		医療	●日本国内における医療 ●医療品および医療業務の提供
		衛生	●日本国内における衛生 ●医療品および医療業務の提供
		警備	●米軍施設・区域の警備 ●米軍施設・区域の周辺における警備 ●日本国内の輸送経路上の警備 ●情報の交換
		通信	●日米両国の関係機関の間の通信の[illegible]
		その他	●米船舶の出入港に対する支援 ●自衛隊施設及び民間空港・港湾における物資の[illegible] ●米軍施設・区域内における汚水処理、給水、給電など ●米軍施設・区域従業員の一時増員
	運用面における日米協力	警戒監視	●情報の交換
		機雷除去	●日本領域及び日本の周辺の公海における機雷の除去並びに機雷に関する[illegible]
		海・空域調整	●日本領域及び周囲の海域における交通量の増大に対応した海上運航調整 ●日本領域及び周囲の空域における航空交通管制並びに空域調整

エルモ【独立行政法人 駐留軍等労働者労務管理機構】

LABOR MANAGEMENT ORGANIZATION FOR USFJ EMPLOYEES,INCORPORATED ADMINISTRATIVE AGENCY

エルモとは？

在日米軍従業員の募集、採用から配置転換、月々の給与の支給、健康管理などの福利厚生まで、労務管理を担っているのが独立行政法人 駐留軍等労働者労務管理機構「エルモ」だ。

エルモは防衛省が所管する唯一の独立行政法人。かつて関係都県が機関委任事務として処理していた在日米軍従業員の労務管理を引き継いで平成14年4月に設立された独立行政法人である。職員は約300名。設立された当初は、防衛省・自衛隊等からの出向者が大半を占めていたが、現在エルモ採用のプロパーは約160名に上り、将来の中核要員として日々専門性に磨きをかけている。

エルモのカウンターパートである在日米軍はまさに外国政府の一機関であり、日々の対米調整は外交交渉的な性格を有している。エルモの職員は常に米軍の担当官と意思疎通を図りながら仕事を進めなければならない。米軍にはこの道一筋の担当官が多く、彼らと対等に仕事をしていくためにはエルモプロパーをスペシャリストとして育成していくことが不可欠なのだ。

こうした仕事の性格から、エルモ職員には国家公務員としての身分が与えられている。

エルモ長岡理事長と在日米軍司令官

●ホームページアドレス
LMO　検索　http://www.lmo.go.jp

エルモは、中央機関として東京に本部を置き、労務管理の実働部隊である支部を全国に点在する在日米軍基地に密接した形で配置している。仮に在日米軍が新たな施設を設置すれば、エルモも米軍のニーズを踏まえた上で支部組織を機動的に配置することになるだろう。その意味でエルモと米軍は一体として機能していると言えよう。

エルモ沖縄支部職員による、学生に対する就職説明会

本部	〒108-0073 ☎03-5730-2163	東京都港区三田3-13-12 三田MTビル
三沢支部	〒033-0012 ☎0176-53-4165	青森県三沢市平畑1-1-25
横田支部	〒196-0014 ☎042-542-7660	東京都昭島市田中町568-1 昭島昭和第2ビル
横須賀支部	〒238-0011 ☎046-828-6950	神奈川県横須賀市米が浜通1-6 村瀬ビル
座間支部	〒252-0011 ☎046-251-1547	神奈川県座間市相武台1-46-1
岩国支部	〒740-0027 ☎0827-21-1271	山口県岩国市中津町2-15-35
呉分室	〒737-0051 ☎0823-32-7087	広島県呉市中央1-6-9 センタービル呉駅前
佐世保支部	〒857-0056 ☎0956-23-7191	長崎県佐世保市平瀬町3-1
沖縄支部	〒904-0202 ☎098-921-5531	沖縄県中頭郡嘉手納町字屋良1058-1

エルモは、米軍の任務遂行に必要なマンパワーを適切かつ迅速に確保するため、在日米軍従業員の積極的な募集活動を行っている。

コラム

在日米軍従業員はわが国政府が雇用しているが、直接の使用者は在日米軍だ。言語、文化、就業慣行の異なる外国政府機関で働く従業員の労務管理を円滑に実施していくため、エルモは米軍のニーズを汲み取り、様々な施策に取り組んでいる。米軍はこれを「プロフェッショナリズム」として高く評価し、その証として平成24年1月、エルモ座間支部坪井管理課長（当時）ほかに対し、在日米陸軍基地管理本部司令官より「米陸軍省 公共事業部門 司令官賞」が授与された。米軍が現職の国家公務員に勲章を授与するのは極めて異例なことである。

エルモは自己PRにも余念がない。平成25年11月21日、エルモ横須賀支部の鈴木副支部長が、FM・ブルー湘南の番組「遊びにきませんか、スタジオへ」の「防衛トーク」のコーナーに生出演。「あなたの知らない「アメリカ」について語ります！」と題して在日米軍従業員とエルモを紹介したのだ。

鈴木副支部長は、軽妙な語り口で在日米軍の活動が従業員に支えられていること、従業員の労務管理をエルモが担っていることを紹介。もちろん従業員募集の宣伝も忘れていなかった。

支部レベルにおける米軍との連携は極めて重要だ。大隊司令官に感謝状を贈呈するエルモ前田岩国支部長（平成24年6月）

エルモ職員インタビュー

●本間　愛さん
●エルモ本部情報管理課
（陸上自衛隊補給統制本部採用）

私は平成14年4月に陸上自衛隊補給統制本部に防衛事務官として採用され、以来10年間陸上自衛隊に勤務してきましたが、平成24年4月にエルモへ出向することとなり、約2年が経とうとしています。エルモに来るまでは、在日米軍従業員の存在を知りませんでしたが、従業員には事務職、技術職、医師、コック、販売員から警備員、消防職に至るまで実に様々な職種があり、2万6千人もの従業員の方々が在日米軍の運用を支えていることを知り驚きました。在日米軍従業員の労務管理は、採用から給与計算、福利厚生までを、業務システムにより一元管理されており、現在、私はこの業務システムを含めたエルモにおける情報システムの運用・管理に関する業務に携わっています。直接自衛隊の業務に携わるだけでなく、在日米軍従業員という「わが国を守るもう一つの力」をサポートすることで広く安全保障にかかわることができ、自衛隊員としてのキャリアを広げることができたと思っています。

エルモが在日米軍従業員の募集用に主要駅等に掲示しているポスター